環境経営レポート

（ 対象期間: 2022年 7月 ～ 2023年 6月 ）

2023年 9月 11日

ニーニー技研産業株式会社

本社、嵐山工場、川越工場

～ 目　次 ～

		ページ
1.　環境経営方針	・・・・・	3
2.　組織の概要、対象範囲、推進体制	・・・・・	4
3.　環境経営目標	・・・・・	6
4.　環境経営計画と実績 ＜2022年7月～2023年6月＞	・・・・・	7
5.　環境活動実績と結果の評価	・・・・・	8
6.　次年度の取組み内容	・・・・・	10
7.　環境関連法規への違反・訴訟の有無	・・・・・	11
8.　代表者による見直し記録	・・・・・	12

1. 環 境 経 営 方 針

１－１．環境保全理念

・ お客様に愛され、地球環境にやさしい商品を創出、提供し、
楽しく豊かなアメニティライフを通し、健全な社会づくりに貢献します。

・ 社員の個性と能力を伸ばし、安全で働きやすい夢あふれる企業となり、
環境保全活動を通して、自然・地域と共生する企業を目指します。

１－２．環境経営方針

当社は、環境負荷の低減が企業の社会的な責務であることを認識し、地球環境の保護･保全への取り組みを経営の重要課題の一つとして位置づけ、持続可能な循環型社会の形成と自然との共生社会を目指し、全社を挙げて下記の環境方針を定めて行動いたします。

２－１　私たちは、省資源、省エネルギー、リサイクル化の推進及び有害物質、廃棄物、使用燃料の削減、節水等の環境保全、環境配慮製品など、環境の改善活動に積極的に取り組みます。

２－２　私たちは、事業活動における環境目的及び環境目標を定め、全従業員が一丸となって、活動の推進と継続的改善に努めます。

２－３　私たちは、日常業務や朝礼などを通じ、環境保全に対する従業員の理解と意識向上のため、環境活動の定着に努めます。

２－４　私たちは、環境関連法規類を遵守し、地球環境の保全に努めます。

２－５　私たちは、地球環境に配慮した製品の開発及び設計に努めます。

２－６　私たちは、環境経営レポートを社内外に公表します。

制定日：　2007．07．30
改訂日：　2020．01．01

ニーニー技研産業（株）
代表取締役　五十嵐　博之

２．　組織の概要、対象範囲、推進体制

２－１．組織の概要

1.1　事業所名及び代表者名

ニーニー技研産業株式会社
代表取締役社長　五十嵐　博之

1.2　所在地

本　社	〒101-0035	東京都千代田区神田紺屋町１１（鈴野ビル）
嵐山工場	〒355-0204	埼玉県比企郡嵐山町花見台１０－９
川越工場	〒350-0833	埼玉県川越市芳野台２－８－７４

1.3　環境推進代表者および環境管理責任者、連絡先

環境推進代表者
環境管理責任者　　代表取締役　　五十嵐　博之

連絡先　　電話 :0493-63-0571　FAX :0493-63-1738

1.4　事業活動の概要

業 種 名　　家具、装備品製造業（住宅設備機器）

事業内容　　洗面化粧台用ミラーキャビネット、化粧棚、
流し台の部品、ユニットバスの部品の製造

1.5　事業の規模

設立年月　　昭和41年（1966年）３月

資 本 金　　2，500　万円

従業員数　　38名　　＜内訳：本社5名、嵐山 30名、川越3名＞（2022年6月）

延床面積　　全　社　　8，239　m^2
（本社）　（　　56）
（嵐山）　（5，880）
（川越）　（2，303）

２－２．対象範囲　　（認証・登録範囲）

2.1　認証・登録事業者

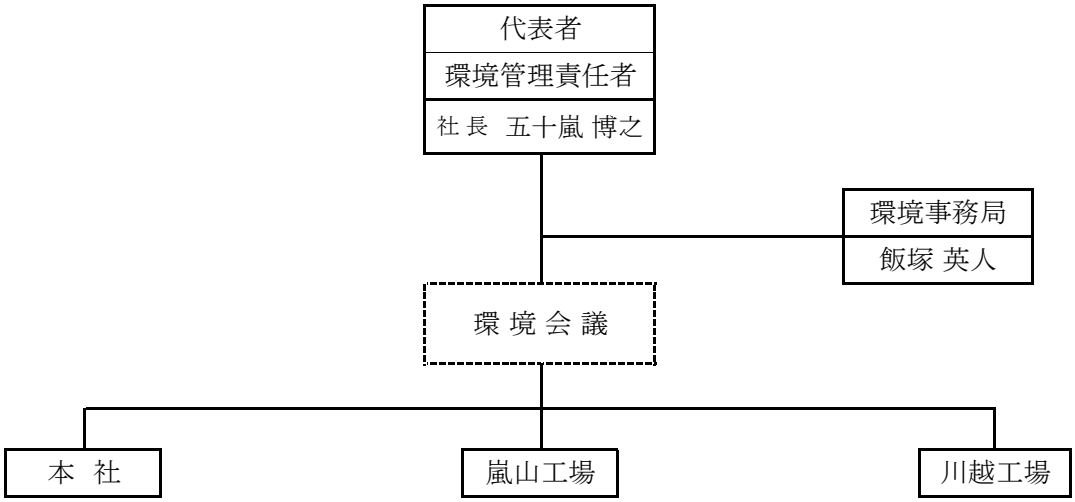
ニーニー技研産業株式会社　本社、嵐山工場、川越工場

2.2　認証・登録番号　　0002994

２－３．環境活動単位

・ 環境経営レポート対象期間 ； 2022年7月～翌年6月を 1活動単位とする。
・ 環境経営レポートの発行は原則的に9月末日を予定。

２－４. 環境経営実施体制



	役割、責任及び権限
代表者	・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・環境経営に関する方針（環境経営方針）を定め、誓約する。 ・効果的で必要十分な実施体制を構築する。 ・各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員へ周知する。 ・EA21を運用し、維持するための経営資源を用意する。 ・環境経営全体の取組状況及びその効果を評価し、以下の項目を含む 総括的な見直しを実施し、必要な指示を行う。 ①環境経営方針、②環境経営目標及び環境経営計画、③実施体制
環境管理責任者 事務局	・環境への負荷と取組の状況を把握及び評価する。 ・環境関連法規などの取りまとめ、並びに遵守状況を評価する。 ・環境経営目標及び環境経営計画の策定、並びに達成状況・実施状況を評価する。 ・問題がある場合の是正処置、予防処置を実施する。 ・教育・訓練を実施する。 ・環境コミュニケーションを実施する。（内部、外部、環境経営レポート） ・環境上の緊急事態への準備及び対応をする。 ・緊急事態等の施行実施後及び発生後に、対応策の有効性を検証し、必要に応じて改訂する。 ・環境経営方針、環境経営目標を達成するために、必要に応じて手順書を作成し運用する。 ・文書類を作成・管理する。
従業員	・環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の達成、並びに環境関連法規などの 遵守に必要な取組を実施する。 ・環境経営方針、環境経営目標を達成するために、必要に応じて手順書を作成し運用する。

3.　環境経営目標

環境目標の設定にあたり、事業活動における環境負荷の調査から、地球温暖化の因子となす二酸化炭素の排出、特に影響のある電力消費量と廃棄物排出量の削減、持続可能な循環型社会の形成としてリサイクル化を促進して、更に省資源としての水使用量（排出量）の削減を主項目とします。

3－1.　環境負荷の状況

項目		単位	48期 2018年度(基点)
二酸化炭素排出量		kg-CO2	533,200
電力消費量		kWh	840,080
化石燃料	A重油使用量	L	1,800
	LPG　使用量	kg	169
	ｶﾞｿﾘﾝ、軽油 使用量	L	3,200
廃棄物排出量		kg	103,845
水使用量		m^3	1,363

3－2.　環境経営目標

項目		単位	基点年度 48期 2018年(実績)	目標 50期 *3)	目標 51期 *3)	目標 52期 *3)
二酸化炭素排出量		kg-CO2	13,200	530,500	527,900	525,200
（削減率）			(533,200)	△0.5%	△1.0%	△1.5%
電力消費量		kWh	840,080	835,900	831,700	827,500
（削減率）				△0.5%	△1.0%	△1.5%
化石燃料	A重油使用量	L	1,800	―	―	―
	LPG　使用量　*1)	kg	169	―	―	―
	ｶﾞｿﾘﾝ、軽油使用量	L		49期実績の△1.0%	50期実績の△1.0%	51期実績の△1.0%
			3,200	3,170	3,140	3,110
廃棄物排出量		kg	103,845	102,800	101,800	100,700
（削減率）				△1.0%	△2.0%	△3.0%
産廃リサイクル化率		%	*5)　71.5%	72.2%以上	72.9%以上	73.7%以上
水 使用量（排水量）		m^3	1,363	1,360	1,350	1,340
（削減率）				△0.5%	△1.0%	△1.5%
環境保全活動への参加		回	2回以上（2回）	2回以上	2回以上	2回以上
近隣苦情の防止		件	0件	0件	0件	0件
項目		単位	50期実績	51期 目標 前期実績△1.0%	51期実績	52期 目標 前期実績△1.0%
本社EA21活動の推進	二酸化炭素排出量	kg-CO2	2,544	2,519	1,845	1,827
	電力消費量	kWh	4,360	4,316	3,220	3,188
	OA用紙使用量	枚 *4)	2,715	2,688	2,560	2,534
	廃却ゴミ量	kg *4)	14.2	14.1	12.1	12.0
	ｶﾞｿﾘﾝ使用量	L	268	265	184	182

目標設定について

*1)　LPGは、応急的な金型加温用及び給湯（川越のみ）の為、2012年以降は実績収集に留める。

*2)　50期以降は、2018年新基点からの削減率とする。

*3)　本社活動のOA用紙使用量及び廃却ゴミの目標設定を、年間から月平均値とする。

*4)　48期は廃プラ廃棄先としての海外処理が一気に無くなった為、数値が悪化。その数値からの場合、50期達成が容易となりそうな為、2015年値と2018年値の中間を取ることとする。 61 ⇒ 71.5 %

4. 環境経営計画・実績表

承　認	作　成
五十嵐	市之瀬
2022年8月9日	2022年8月8日

部門名:　本社／嵐山・川越工場

52期 （2022/7月～2023/6月）

○ :計画
● :実施

No	環境目的・目標 項目	（50期から基点年度を変更） （基点：48期 2018年実績値） 目標（削減率、目標値）	方　法	責任者	タイムスケジュール（○：計画、●：実施） R04 7	8	9	10	11	12	R05 1	2	3	4	5	6
1	省ｴﾈ・二酸化炭素排出量の削減 ○ 電力消費量の節減	△ 1.5 % 525,200 (kg-CO2) △ 1.5 % 827,500 (kwh)	・省エネルギー化への段階的な推進 ・建物の断熱・遮熱の施工の検討 ⇒ ・稼働時間外による消費電力削減、不要電力の消灯 ・空調機の稼働調整／フィルターの定期清掃 ⇒ ・成形機の稼働調整 ⇒	市之瀬 村田（勇）/ 野原 / 田中貴	●	（嵐）●受電設備年次点検→11月点検予定 ●	●空調ﾌｨﾙﾀｰ清掃 ●	（川）●受電設備年次点検→11月点検予定 ●	●	●	●	●	●	●空調ﾌｨﾙﾀｰ清掃 ●	●	●
2	廃棄物排出量の削減 ○ 再資源、再利用化	△ 3.0 % 100,700 (kg) ﾘｻｲｸﾙ化率 73.7 %以上	・発注部材品の梱包材の簡素化の推進。 ⇒ ・発注部材品の梱包材をプラから段ボール系に転換。 ・廃棄物 再資源・再利用化の推進 ・廃棄物、分別活動継続と排出の抑制 ⇒	市之瀬 工場 全部署	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	● 産廃物管理状況報告●	●
3	総排水量の低減 （給水量）	△ 1.5 % 1,340 (㎥)	・節水及び漏水発見活動の継続励行 ・日常的な節水の励行 ・過使用時の早期原因把握と対処 ・水道ﾒｰﾀｰの検針、記録	工場 全部署 市之瀬/野原/田中貴	●	●	●ｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ清掃 ●	●	●	●	●	●	●	●	● ｸｰﾘﾝｸﾞﾀﾜｰ●清掃	●
4	成形工程、省資源化への取組 （不良削減）	成形品不良率 △ 1.0 %	＜次年度の目標設定への環境数値の把握＞ ・再利用化先、再利用率把握、不良解析	市之瀬 田中貴			計測●			計測●			計測●			計測まとめ●
5	環境配慮製品の情報収集と その反映	情報収集、 他社品分析、他	・環境負荷低減品の検討と開発	飯塚隆/ 杉本/三浦			●検討会			●検討会				●検討会		
6	環境保全及び地域とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	参加＆実施: 2 回以上/年	・行政・地域の環境保全活動への参加 ・構内及び周辺（社外）清掃の実施	市之瀬/ 権田/根津/ 内川/飯塚英	×川越東部工業会総会		×団地内 秋季清掃雨天中止 ●健康診断	×工業会ふれあい祭り中止	×工業会 消防訓練				●団地内 春季清掃	●防災避難訓練	●花見台工業団地総会 ×川越東部ブロック会議	
7	近隣苦情の防止	件数: 0 件/年	・予防・発生源対策の推進 ・定期監視（騒音、振動、悪臭） ＜作業環境測定の実施＞ ＜各種法定点検の実施＞	市之瀬 各該当部署		（嵐）●ELV年次点検			（嵐）●消防設備点検	（嵐）●作業環境測定 （川）●消防設備点検					（嵐）作業環境●測定 （嵐）動力プレス点検● （川）動力プレス点検● （嵐）●消防設備点検 （川）消防設備●点検	
8	本社エコアクション21活動	各活動項目: 51期 実績比 △ 1.0 %	・各活動アイテム（電力消費/OA用紙/廃却ゴミ/ ガソリン使用量）の削減推進と継続 ・空調機の管理(ﾌｨﾙﾀｰ清掃)　・スキャナー活用 ・ミスコピー削減、裏紙利用、簡易包装品の購入 ・エコドライブの実行	飯塚隆/ 富永	●	●	●	● ●健康診断	●	●	●	●	●	●	●	●

環責	担当
市之瀬	飯塚英

環責	担当
市之瀬	飯塚英

環責	担当
五十嵐	飯塚英

環責	担当
五十嵐	飯塚英

5. 環境活動実績と結果の評価

5－1. 環境活動実績、評価

項目		単位	48期 2018年（新基点値）	51期 実績	52期 目標	52期 実績	中長期目標の評価
				実績値	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量		kg-CO2	13200 (533,200)	295,056	525,200	237,812	○
（削減率）				△44.1%	△1.5%	△45.2%	
電力消費量		kWh	840,080	730,461	827,500	736,586	○
（削減率）				△12.2%	△1.5%	△10.9%	
化石燃料	灯油使用量	L	1,800	640	―	140	―
化石燃料	LPG 使用量	kg	169	81	―	81	―
化石燃料	ｶﾞｿﾘﾝ、軽油使用量	L	3,200	5,156	5,079	1,820	○
化石燃料	（削減率）			△23.5%	51期実績の△1.5%	△64.1%	
廃棄物排出量		kg	103,845	57,847	100,700	69,493	○
（削減率）				△43.2%	△3.0%	△30.9%	
産廃リサイクル化率		%	71.5%以上	68.0%	73.7%以上	60.6%	×
水 使用量(排水量)		m^3	1,363	1,032	1,340	1,043	○
（削減率）				△23.6%	△1.5%	△22.1%	
環境保全活動への参加		回	2回以上	2回	2回以上	2回	○
近隣苦情の防止		件	0	0	0	0	○
本社EA21活動推進	二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,845	1,845	1,827	1,798	○
本社EA21活動推進	（削減率）		―	△26.8%	前年実績比△1.0%	△0.9%	
本社EA21活動推進	電力消費量	kWh	3220	3,220	3,188	3,300	×
本社EA21活動推進	（削減率）		前年実績比△1.0%	△25.2%	前年実績比△1.0%	+3.5%	
本社EA21活動推進	OA用紙使用量	枚	2560	2,560	2,534	2,495	○
本社EA21活動推進	（削減率）		前年実績比△1.0%	△4.7%	前年実績比△1.0%	△1.5%	
本社EA21活動推進	廃却ゴミ量	kg	12.1	12.1	12.0	12.0	○
本社EA21活動推進	（削減率）		前年実績比△1.0%	△14.0%	前年実績比△1.0%	0.0%	
本社EA21活動推進	ｶﾞｿﾘﾝ使用量	L	184	184	182	133	○
本社EA21活動推進	（削減率）		前年実績比△1.0%	△30.8%	前年実績比△1.0%	△28.1%	

52期 の活動評価方法について

① 上記環境項目の削減目標については基点年度を、2015年から2018年へ変更した。
② 灯油及びLPG使用については使用目的が限定的で使用頻度や温度状況によって差があるため、評価対象から外した。
③ 2010年後半からｶﾞｿﾘﾝの他、軽油使用も発生。工場間輸送等に伴い給油使用量は受注量などの増減により変化する為、前年実績の1%減とした。
④ 産廃リサイクル化率は、総廃棄物量における再生利用量の割合とした。
⑤ 環境保全活動への参加は、工業団地内の道路清掃及び構内の周辺清掃（除草作業）をメインとしている。
⑥ 本社活動のOA用紙使用量及び廃却ゴミ量の基点値は収集期間の開始が2011年2月から12月までとなっている為、評価方法を合計値から月平均値に変更。尚、2012年度以降の各項目の目標値は前年度の実績値から1%減とした。
⑦ 全社二酸化炭素排出量(52期) ⇒ 239,610 kg-CO2
（工場二酸化炭素排出係数 ⇒ 0.316 kg-CO2/kWh）、(本社二酸化炭素排出係数 ⇒ 0.451 kg-CO2/kWh)

５－２．取組み結果の評価

１）(1) 省エネ・二酸化炭素排出量の削減

① 目標達成状況　;目標△1.5%に対し、実績△45.2%と、目標を大幅にクリア出来た。
② 要因分析　;生産縮小に伴い、電力消費量が減少した為。

(2) 電力消費量の削減

① 目標達成状況　;目標　△ 1.5%に対し、実績△ 10.9%と、目標をクリア出来た。
② 要因分析　;残業時間の抑制により、空調稼働時間の短縮が図られた。

２）廃棄物排出量の削減

① 目標達成状況　;目標△ 3.0%に対し、実績△ 30.9%と、目標を大幅にクリア出来た。
② 要因分析　;納品梱包材の簡易化及び生産品種変化（小型品から大型品へのシフト）による
;品質の向上により返却される製品が減ることによって、廃棄部品も減った。

(1) リサイクル化の推進

① 目標達成状況　;産廃リサイクル化率の目標 73.7%以上に対し、実績 60.6%と目標値に届かず。
② 要因分析　;東南アジアでのリサイクル用プラスチックゴミの受入れ拒否となる事態になり、
国内で廃プラとして処分しているため。リサイクル率が上がる見込みが無くなった。

３）総排水量（使用量）の低減

① 目標達成状況　;目標△ 1.5%に対し、実績 △ 22.1%と、目標を大幅にクリア出来た。
② 要因分析　;嵐山工場のクーリングタワーを新設した為、循環効率が上がった。

４）環境保全及び地域とのコミュニケーション

① 地域工業会の春季・秋季の一斉清掃デー、調整池巡回など諸活動への参加。
② 工場建屋外周りの樹木伐採、構内の清掃実施。

５）近隣苦情の防止

① 作業環境測定、消防設備の点検及び修理など、各種設備点検を定期的に行い予防に努めた。
② アイドリングストップの実施 （駐車場利用の協力会社及び全従業員への周知）

活動の評価

廃棄物のリサイクル化率以外の項目は、残業の抑制・生産数変化・機器稼働の適正化などにより、目標を達成もしくは目標との差が僅かであった。リサイクル化率が目標値未達については、海外での受入れ困難な状況を踏まえると今後も目標達成に対して視点の切り替えが必要と考える。

次期の目標達成に向けて、計画を継続的に進めていく。

6. 次年度の取組内容

及び第五次中長期（53期～55期） 全社 環境目的・目標

＊ 第五次中長期策定の基点は、51期（2021年）実績値とする。
＊ 嵐山/川越サイトの二酸化炭素排出係数は、0.394kg-CO2 （2022年7月公表「電気事業者別排出係数」引用）
＊ 本社サイトの二酸化炭素排出係数は、0.441kg-CO2

代表者/管理責任者	作成者
五十嵐	飯塚英
2023年8月9日	2023年8月8日

No.	環境目的	中長期目標 新基点：51期（2021年）実績	53期（2023年度）	54期（2024年度）	55期（2025年度）	方策
1	嵐山/川越サイトEA21活動 省エネ・二酸化炭素排出量の削減	295,056 (kg-CO2)	293,600 (kg-CO2) △ 0.5 %	292,100 (kg-CO2) △ 1.0 %	290,600 (kg-CO2) △ 1.5 %	・不要電力の消灯、定時退社の推進 ・照明LED化の推進 ・空調機の負荷低減として、建物の断熱・遮熱の施工の検討
	○ 電力消費量の節減	730,461 (kWh)	726,800 (kWh) △ 0.5 %	723,200 (kWh) △ 1.0 %	719,500 (kWh) △ 1.5 %	・エネルギー消費の大きい機械の稼働調整を行いピークデマンド値を抑制する ・空調機フィルターの清掃 ・最適（環境とコスト）な電力契約プランの検討
2	廃棄物排出量の削減	57,847 (kg)	57,300 (kg) △ 1.0 %	56,700 (kg) △ 2.0 %	56,100 (kg) △ 3.0 %	・廃棄物の分別活動継続と排出の抑制 ・廃棄物 再資源・再利用化の推進 ・発注部材品の梱包材の簡素化の推進。
	○ 再資源、再利用化（リサイクル率）	68.0 %	69.0 %以上 1.0 %	70.0 %以上 2.0 %	71.0 %以上 3.0 %	・集約印刷、両面印刷の活用 ・ペーパーレス化の推進、スキャナー活用
3	総排水量の低減 （給水量）	1,032 (m^3)	1,030 (m^3) △ 0.5 %	1,020 (m^3) △ 1.0 %	1,020 (m^3) △ 1.5 %	・節水及び漏水発見活動の継続励行（日常的な節水の励行） ・過使用時の早期原因把握と対処（水道メーターの検針、記録）
4	成形工程、省資源化への取組 （不良率削減）	2.59 (%) 成形品不良率	2.56 (%) △1.0%	2.54 (%) △2.0%	2.51 (%) △3.0%	・年間のデータ測定を行い、そこから削減目標と施策を決定
5	環境配慮製品の情報収集と その反映	提案件数：2件	環境負荷低減品 の検討と開発	環境負荷低減品 の検討と開発	環境負荷低減品 の検討と開発	・環境負荷削減調査（省エネ、省資源、軽量。包装、仕様etc） ・部品点数の削減 ・分解性の高い設計 ・製品梱包の緩衝材をプラスチックから段ボール系に転換 ・再資源化可能な材料を用いた部品の積極採用 ＜検討会の実施＞
6	環境保全及び地域との コミュニケーション	実績；2回	2回以上/年	2回以上/年	2回以上/年	・行政・地域の環境保全活動や研修会への参加 ・構内及び周辺(社外)清掃の実施 ・地域イベント（祭り）への参加
7	近隣苦情の防止 （苦情件数）	実績；0件	0件	0件	0件	・定期監視（騒音、振動、悪臭） （予防・発生源対策の推進）
8	本社サイトEA21活動	（基準＝51期）	各項目基準期比 △ 1.0%	各項目基準期比 △ 2.0%	各項目基準期比 △ 3.0%	
	・二酸化炭素排出量	1,845 (kg-CO2)	1,827 (kg-CO2)	1,808 (kg-CO2)	1,790 (kg-CO2)	・不要電力の消灯、定時退社の推進
	・電力消費量	3,220 (kWh)	3,188 (kWh)	3,156 (kWh)	3,123 (kWh)	・空調機フィルターの掃除、扇風機/サーキュレータの活用検討
	・OA用紙使用量 （月平均）	2,560 枚	2,534 枚	2,509 枚	2,483 枚	・スキャナー活用でペーパーレス化（配布資料の削減）
	・廃却ゴミ量 （月平均）	12.1 (kg)	12.0 (kg)	11.9 (kg)	11.7 (kg)	・ミスコピー、プリントミスの削減、物品購入時の簡易包装のお願い実施
	・ガソリン使用量	184 (L)	182 (L)	180 (L)	178 (L)	・エコドライブの推進（急発進、急ブレーキ、車間距離、エアコン温度、省エネ運転の心がけ）

7. 環境関連法規への違反・訴訟の有無

7－1. 環境関連法規

環境関連法規	要求事項	確認状況	評価
廃棄物処理法 ＜廃掃法＞	・廃棄物の収集運搬処理業者の委託基準 ・廃棄物の適正処理 ・ﾏﾆﾌｪｽﾄ管理票の保管（A票含む）	・産業廃棄物処理業者の許認可証確認 ・産業廃棄物管理票の交付と処理票確認 ・廃棄物マニフェスト管理票の保管状況確認	○
大気汚染防止法	・揮発性有機溶剤の排出、 飛散、抑制措置	・作業環境測定実施報告書にて確認 ・保管庫の施錠確認	○
騒音規制法	・規制基準の遵守義務 朝、夕　65 dB以下 昼間　70 dB以下 夜間　60 dB以下	・発生源（圧縮機）周辺の機械騒音測定で クリア → 報告書確認	○
振動規制法	・規制基準の遵守義務 昼間 65dB以下／ 夜間　60dB以下	・圧縮機の防振対策状況確認、異常なし	○
毒物劇物取締法	・盗難防止、文字の表示	・毒物、劇物の文字表示確認 ・保管貯蔵所の施錠状況確認 ・購入および使用実績の日常点検簿確認	○
フロン排出抑制法	・業務用空調機器の適切な管理 ・漏えいの対処 ・点検等の記録保管	・簡易点検の記録簿確認 ・有資格者による点検の実施（15kW以上）	○
特定家庭用機器再商品化法 ＜家電リサイクル法＞	・廃棄時における家電品の 運搬業者等への適切な引渡し	・冷蔵庫、洗濯機、テレビの処分時は 指定ﾘｻｲｸﾙ業者へ委託	○
労働安全衛生法 ＜有機溶剤中毒予防規則＞	・作業環境の安全と健康の確保	・労働者への注意事項等の掲示確認 ・有機溶剤作業主任者の選任 ・作業環境測定及び健康診断の実施	○
消防法	・危険物貯蔵施設の維持・管理	・少量危険物貯蔵所の入出庫記録簿と 購入実績、実在庫の確認	○
環境教育推進法	・環境保全意欲の増進及び環境教育 ・情報の積極的な公表等	・コミュニケーション簿 ・環境活動レポートの設置（事務所）	○
地球温暖化対策推進法 ＜温対法＞	・温室効果ガスの排出抑制と その排出量が少ないものを製造	・ﾃﾞﾏﾝﾄﾞ監視装置による電力使用の制御 ・空調設定、節電等の各箇所表示 ・生産品への省エネ部品の採用拡大	○
循環型社会形成推進法	・3Rへの努力と適正な処分 ＜順位＞ 1） 再利用（Reuse） 2） 再生利用（Recycle） 3） 拒否（Refuse） 4） 処分（Disposal）	・廃棄物の分別実施と廃棄実績の確認	○
埼玉県生活環境保全条例	・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ・ｽﾄｯﾌﾟの実施 （駐車場の利用者への周知） ・特定化学物質等取扱量の把握と報告 （年間取扱量が500kg以上の場合、 知事に報告）	・ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ・ｽﾄｯﾌﾟ　表示板　設置確認 ・新規採用時に周知継続 ・化学物質等の取扱量報告書確認 （メタノール、MEK ⇒ 500kg未満）	○

7－2. 違反・訴訟の有無

52期（2022/7月～2023/6月）は関係当局からの立入査察の他、近隣地区からの指摘、苦情、訴訟等の連絡も無く、環境関連法規の違反もありません。

ニーニー技研産業株式会社

8. 代表者による見直し記録

作成日　2023年 9月 5日

作成者　EA21事務局　飯塚英

8－1. 見直しのための情報

見直し概要	見直し実施区分	定期	随時	管理責任者
	情報の提供者	EA21事務局　飯塚　英人	—	五十嵐
	見直し者	代表取締役　五十嵐　博之	—	
見直し実施日	情報の提供日	2023年　9月　1日		
	見直し実施日	2023年　9月　2日		

情報項目及び評価・課題	1　環境関連法規等の遵守状況 各要求項目とも遵守出来ていると評価します。
	2　環境経営目標の達成状況 工場部門のリサイクル率が未達成以外は目標を達成。成形シート材の不良改善でリサイクル量が相対的に減少しているので一概に悪いとは言えない状況であります。
	3　問題点の是正・予防処置の結果 環境予防処置として計画していた、消防訓練は予定通り実施することが出来ました。
	4　外部からの苦情・要望に対する結果 ５２期（２０２２/７月～２０２３/６月）は関係当局からの立入査察等はありません。
	5　社会・取引先・法規制等の外部動向 化学物質把握促進法、埼玉県生活環境保全条例の改正がありましたが、工場での取扱い物質把握量は対象外になります。
	6　環境経営ｼｽﾃﾑの有効性及び妥当性 目標遂行に支障無く、システムの有効性は保たれていると判断致します。
	7　その他（課題のための施策など） 目標管理の為にデータ集計を日々行っているが、精度向上と工数削減の相反する課題に対しての対策が必要と考えます。
情報提供上の総評	・電力使用のピークデマンドを下げる策が必要と考えます。

8－2. 代表者による見直し内容

見直し・変更の必要性有無	代表者によるコメント	代表者
1. 環境経営方針 （必要）　（不要）	特になし	五十嵐
2. 環境経営目標・計画 （必要）　（不要）	工場統合化に向け、目標達成への課題と傾向を注視、分析すること。	
3. 社会・取引先・法律等への対応 （必要）　（不要）	特になし	
4. 実施体制・その他 （必要）　（不要）	新入社員への教育を計画的に実施すること。	